レタル後言渡期日ニ発ス可キ判定ヲ以テ競落ノ許否ニ付キ裁判ヲ為ス可シ

第七百七十一條　差押債権者、各抵當債権者及ヒ債務者ハ競賣手續ニ関スル重要ナル成規ノ違背アリタルトキハ言渡期日ニ於テ競落ヲ許スヿニ付キ異議ヲ申立ツルヿヲ得

又左ノ者ハ右ト同一ノ理由ニ因リ言渡期日ニ於テ異議ヲ申立ツルヿヲ得

第一　告知ヲ受ケタル競落人ハ自身カ競落人トシテ告知セラルヽノ理由ナキ旨ヲ主張シテ競賣ヲ求メン為メ異議ヲ申立ツルヿヲ得

第二　他ノ各競買人ハ自身カ競落人トシテ告知セラル可キノ理由アル旨ヲ主張シテ又裁判所ハ競賣手續ニ関スル重要ナル成規ノ違背ヲ職権ヲ以テ規察ス可シ

言渡期日ニ於テ為シタル事項ニ付テハ第二百五十二條以下ノ規定ニ従ヒ調書ヲ作ル可シ若シ其期日ニ判定ヲ言渡スヿヲ得サル片ハ更ニ言渡期日ヲ定メ裁判所掲示板ニ掲示シテ之ヲ公告ス可シ

第七百七十二條　若シ不動産カ其全部ニ於テ又ハ各箇ノ成立部分又ハ附屬物ニ於テ競賣ノ時ト競落ノ許否ニ関スル判定ノ言渡期日トノ間ニ天災又ハ其他ノ事變ニ因リ著シク價額ノ減少ヲ受ケタル片ハ告知セラレタル

競落人ハ其競買ヲ取消スノ権利アリ

主張セラレタル價額ノ減少カ著シキモノタルヤ否ハ裁判所之ニ関スル情況ヲ斟酌シテ之ヲ定メ又適當トスル場合ニ於テハ檢證ヲ為シ又ハ鑑定人ヲ審訊シタル後之ヲ定ム可シ

第七百七十三條　競落ヲ許ス判定書ニハ競賣セラレタル不動産、競落人及ヒ競落ノ許サレタル競買價額ヲ掲ケ其競落カ特別ノ賣却條件ヲ以テ為サレタル片ハ其條件ヲモ掲ク可シ

競落ヲ許サヽル判定書ニ於テハ不動産ノ再度ノ競賣ヲモ命ス可シ

其判定ハ言渡スノ外尚ホ裁判所ノ掲示板ニ掲示シテ之ヲ公告スル可シ

第七百七十四條　差押債權者、各抵當債權者及ヒ債務者ハ競落ノ許否ニ関スル判定ニ因リ損失ヲ被ムル可キ場合ニ於テハ其判定ニ對シ抗告ヲ為スノ權利アリ

又左ニ掲クル者ハ抗告ヲ為スノ權利アリ

第一　競落カ許サルヽノ理由ナキヿ又ハ判定書ニ掲ケタル以外ノ條件ヲ以テ許サル可キヿヲ主張スル競落人

第二　競落ヲ已レノ為メニ請求シ且已レニ其競落カ許サル可キヿヲ主張スル競買人

競落ヲ許サレルヿニ関スル抗告ハ競賣手續

ニ関スル重要ナル成規ノ違背ナキヿヲ以テ理由トシ又競落ヲ許シタルヿニ関スル抗告ハ此ノ如キ違背アルヿノミヲ以テ理由トスルヿヲ得

第七百七十二條　第七百七十五條ノ制限ヲ適用セスト雖モ第七百七十二條ノ場合ニ於テハ右抗告理由マタ可キ七日ノ期間ニ拘束セラレ執行停止ノ効力ヲ有ス執行裁判所ハ其裁判ヲ變更スルノ権利ナシ

同一ノ判定ニ関スル數箇ノ抗告ハ互ニ之ヲ併合スヿ可シ

第七百七十六條　抗告裁判所ハ反對陳述書ノ

差出又ハ口頭辯論ノ為メ當事者ノ呼出ヲ決定シタル場合ニ於テ如何ナル人ヲ抗告者ノ相手方トシテ立會ハシムヿヲ定ムヿ相手方ノ申述ハ第七百七十四條第三項ニ掲ケタル制限ニ從フ

第七百七十一條　第七百七十四條第三項及ヒ第七百七十四條第四項ノ規定ハ抗告審ニモ亦之ヲ適用ス

第七百七十七條　若シ抗告裁判所カ抗告ヲ理由アリトスル片ハ判定ヲ變更シテ事件ニ付キ裁判スヿ可シ

若シ競落ヲ許サヽル判定カ廃棄セラレテ別ニ競落ヲ許サヽル片ハ其判定書ニ於テハ不動産ノ再度ノ競賣ヲモ命スヿ可シ

第七百七十八條　若シ不動産ノ適法ナル最低ノ競賣價額カ五百圓以上ナルトキハ抗告裁判所ノ裁判ニ對シ更ニ抗告ヲ為スヿヲ得又適法ナル最低ノ競買價額ナキ場合ニ於テハ不動産ノ評定價額ヲ以テ標準トス

第七百七十九條　抗告ニ關スル判定書ハ抗告者及ヒ其立會ヒタル相手方ニ之ヲ送達シ又執行裁判所ノ判定カ變更セラレ又ハ廢棄セラレタルトキハ其裁判所ハ裁判所■掲示板ニ掲示シテ之ヲ公告スヘシ

第七百八十條　競落ヲ許サヽルヿノ確定ト為リタルトキハ告知セラレタル競落人及ヒ已レノ為メ競落ヲ求メタル他ノ各競買人ハ其競

買ノ責務ヲ免カルル新ナル競賣期日ハ少ナクトモ十五日ノ後タルヿヲ要シ

若シ第七百七十二條ノ場合ニ於テ最高ノ競買價額ノ取消ノ為メ競落カ許サレサルトキハ裁判所ハ新ナル競賣期日ヲ指定スルノ前ニ職權ヲ以テ當事者總員ヲ呼出シタル上更ニ適法ナル最低ノ競買價額ヲ定ムルヿニ付キ說明ヲ為サシム可シ若シ其合意成ラサルトキハ裁判所ハ不動産ノ受ケタル價額ノ減少ニ準據シテ適法ナル最低競買價額ヲ定ム可シ

第七百八十一條　競落ヲ許スヿノ確定ト為リタルトキハ不動産賣却代金ノ全額内ヨリ左ニ

掲クル順序ヲ以テ濟清ス可シ

第一　納ム可キ國稅、地方稅及ヒ市町村稅ノ滯納額

第二　不動産ノ競落マテ継續シタル強制管理ニ付キ差押債権者カ其不動産ノ保存及ヒ必要ナル修繕ノ為メ為シタル総テノ出費

第三　不動産ノ管理ノ為メニ置キタル雇人ノ給料、食料其他ノ職務上ノ収入額

第四　差押ノ當時不動産ニ付キ抵當権ヲ記入シタル債権者ノ債権ノ元金及ヒ利息

第五　差押債権者ノ債権ノ元金并ニ利息及

ヒ債務者ヨリ其債権者ニ辨償ス可キ訴訟費用并ニ強制執行ノ費用

數名ノ抵當債権者ノ債権ハ記入ノ順序ニ從ヒ之ヲ濟清ス

同一ノ順位ニ在ル可キ數箇ノ債権ハ賣却代金全額ノ不足ナル場合ニ於テハ債権額ノ割合ニ應シ平等ニ之ヲ濟清ス可シ

第七百八十二條　代金ノ支拂及ヒ分配ハ競落ヲ許スヿノ確定ト為リタル後職権ヲ以テ定メラル可キ期日ニ於テ之ヲ為ス

其期日ニハ差押債権者、各抵當債権者、債務者及ヒ競落人ヲ呼出ス可シ

債権者カ債務者ニ屬ス可キ代金ノ残額ニ付

キ差押ヲ為シ強制競賣ノ手續ニ関スル記錄ニ編入スル為ノ差押届書ヲ裁判所ニ差出シタル片ハ其債権者ヲモ亦代金支拂及ヒ分配ノ期日ニ立會ハシム可シ

右ノ外其期日ハ裁判所掲示板ニ掲示シテ之ヲ公告ス可シ但掲示ノ日ト期日トノ間ニハ七日ノ期間ヲ存ス可シ

若シ不動産ノ強制管理ヲ開始シ之ヲ競落マテ継續シタル片ハ収入剰餘額ヲ期日ニ拂込マシムルノ處分ヲ為ス可シ

第七百八十三條　期日ニ於テハ先ツ分配セラル可キ不動産ノ賣却代金全額ノ幾何ナルヤヲ定ム可シ

其代金全額ハ左ノ物ヨリ成ル

第一　代金及ヒ競落判定ノ言渡ノ日ヨリ支拂日マテ法律上ノ利息

第二　不動産ニ付キ開始シテ競落マテ継續セラレタル強制管理ノ収入剰餘額ニシテ代金ニ加フ可キモノ

最高競賣價額ハ代金ノ支拂ヘ判事ニ之ヲ為ス保證ノ為メ預ケラレタル金額ヲ代金ニ之ヲ算入ス